

神奈川歯科大学資料館 ～人体標本と100年史～ 開館

—資料館に込める想い— 館長 鹿島 勇

本学は、1910年に開設した東京女子歯科医学講習所に始まり、建学の精神である「生命に対する畏敬の念」を今日まで継承している100年以上の歴史を持つ歯科医学教育機関です。この資料館は、その悠久の刻をかけて創り上げてきた文化の習熟度の指標であり、100年の歴史を有する大学としての品格の象徴となります。また、教職員の帰属意識や在学生の母校意識を高め、旅立って行った多くの卒業生同士を繋ぐ絆の象徴ともなります。さらに、学外との関係構築のためのDiplomacyとしての役割をも担うことになるでしょう。「量り知れないものを形にする」ことをコンセプトに開設したこの資料館が、明日への生きる意欲・活力を起こさせるための深い感動を与える場となることを願っております。

—資料館設立の経緯と御案内— 設立準備委員長 勝野 賢一

平成25年5月17日(金)法人は、本学文化の象徴と大学の新たなシンボルとして「神奈川歯科大学資料館～人体標本と100年史～」を開館致しました。この施設は横須賀臨床研修センター(旧附属歯科技工専門学校)1F部1065㎡を占有し本学解剖学の初代教授で日本の歯科学教育に多大な影響を齎した横地千仞名誉教授が21年の在任中に作成された世界に類を見ない人体標本を中心に、本年で103年を迎える本学の軌跡や、100年の時の流れを再現した歯科診療室など、約500点をそれぞれに趣きの異なった7室で構成・展示しております。なお、横地名誉教授は今年で御年94歳を迎えられましたが、矍鑠としてお過ごしされており、開館にあたり資料館名誉館長にご就任されました。また、初代館長には鹿島理事長がその任にあたられます。

◎館内図と各室の詳細



① 100年資料室

開学103年を迎えた本学の軌跡を年表とパネルで展示致しました。また、凝縮した歴史をエンドレスで流すモニターと、幾多の貴重なアルバムは全てipadで閲覧できます。また、芥川龍之介が翻訳したレオナルドダヴィンチの解体新書など、貴重な書籍が多数並びます。

② 解剖学歴史館

人体解剖学に関わる資料と人体模型を配した室内において、特に目を引くのが解剖台です。殆どの大学が使用する乾式解剖台と、関東圏では本学のみ浸式解剖台、また最新型のプッシュプル型解剖台

は、技術の進歩を物語っています。

③ 横地千仞の世界館

横地名誉教授と世界的解剖学者J. W. Rohen教授が共同出版された、解剖のバイブル的存在である書籍「カラー・アトラス・オブ・アカデミー」を初版より全て展示しました。アトラスは、現在世界20カ国で翻訳されています。

また、横地名誉教授が優秀なアナトミストであると同時に、サイエンティストであり優秀なアーティストである事を改めて感じさせる独創的で繊細な絵画や作品の数々を多数展示しております。横地千仞の繊細な感性に浸れる、唯一無二の一室です。

④ 人体標本室

カラーアトラス・オブ・アナトミーに掲載してある多数の標本が並ぶ本学が世界に誇る標本室です。液浸人体標本・臓器標本・成人・小児骨格標本等、約220点を展示しその貴重で豊富な標本は、歯科大学はもとより医科大学を含め



資料館開館式



左から 鹿島勇館長 小泉進次郎衆議院議員 横地千仞名誉館長

て看過することはできません。特に「病変」では無く「正常」な標本類は観るものを驚愕させます。

現在では、本学生のみならず、全国より約2000名の医療関係者が見学に訪れています。

⑤⑥⑦ 歯科診療室の100年

本学は、創立100年を超える歴史ある歯科医学教育機関であり、その100年に渡る悠久の刻(とき)の流れを「歯科診療室」という形で表現しました。

100年、50年そして現在へとmechanical hardwareの変遷から眼で見る事のできない圧縮された刻の重みを感じとっていただきたいと思います。

その他、100名の見学実習にも対応できるロッカー室を備え、50名収容可能な談話室も完備致しました。また、少人数での利用に適したミーティングルームも新設し、訪れる方々への利便性も十分に配慮致しました。

◎ 設立の経緯

この資料館設立の構想は、本年1月末に「白菊会会員様から多額の御寄附のお申出を受けましたので、現標本室の整備に充当させていただきたい」ことから、標本を中心とし歴史を表現する部屋など、資

料館構想の原型が誕生しました。また、この時点で「開館日は5月17日」と決定しました。

翌日から資料館構想は更に拍車がかかり、2月8日(水)開催の理事会にて資料館設立が正式に承認され、同時に設立準備委員会14名も承認され、資料館設立の幕が開けました。

当初の目標である「GW明けの完成」は遂行できませんでしたが、設立準備委員と各業者様による、まさに血と汗と涙の結晶である資料館は、5月15日(水)最新の歯科ユニットが搬入され遂に完成致しました。この日は、まさに生涯忘れる事はできない日となりました。

◎ 開館式

5月17日(金)爽やかな晴天に恵まれ、神奈川歯科大学資料館開館式が執り行われました。式典には、小泉進次郎代議士をはじめ、他大学解剖学の重鎮の諸先生方、神奈川県立保健福祉大中村学長や横須賀警察署長、今回の資料館設立にあたり多くの貴重な資料をご提供賜りました各業者様、本学理事を始めとした学内関係者や報道機関様など、約100名の方々にご参集賜りました。なお、小泉代議士は

国会会期中の過密スケジュールの中、60分程の滞在でしたが事前に館内をご見学されました。

式典は午前11:00、開学以来本学にご献体を賜りました1849柱への黙祷から開始されました。鹿島館長のご挨拶に続き、ご来賓を代表し小泉進次郎代議士からは「この資料館が歯科医学の発展に大いに寄与して欲しい」等のお言葉を賜りました。

内覧会の興奮冷めやらぬ午後12:15分、開館記念パーティが華々しく開幕致しました。佐藤学長のご挨拶に続き、盛大な拍手に迎えられ横地名誉教授が登壇されました。「人前で話すのは20年振りだからうまく喋れないよ」と事前におっしゃっておられましたが、本学にご着任された当時を懐かしむかのように、標本の作製とアトラス出版に至るエピソードをご披露されたのに続き設立に対する法人への感謝の言葉を述べられました。

御来賓を代表し本学客員教授津田征郎監察医は、横浜市立大学時代の横地助教授の御様子を、次に篤志解剖全国連合会会長の大谷修富山医科大学名誉教授は、解剖学におけるアトラスの教育効果をそれぞれご披露されました。

次に、設立に際し歯科診療室への資料提供に帆走賜りました、(株)田中歯科機械店様、(株)ヨシダ様、(株)モリタ様へ感謝の念を込めた盛大な拍手で皆様を称えました。

最後になりましたが、今回の設立に当り御寄附いただきました白菊会会員様、設立にご尽力賜りました関係各署の方々には、深甚なる感謝と御礼を申し上げます。

(管理・運営)

神奈川歯科大学資料館は、KDC株式会社管理・運営致します。

入館につきましては、原則「医療従事者・医療関係者及び医療を志す者」に限ります。また、完全予約制となりますので、詳しくは以下にお問合せ下さい。

○資料館事務局

担当 勝野 あずさ

直通番号 046-822-9351

Mail shiryokan@kdu.ac.jp

最後に、開館までの担当者の思いは、紙面の都合語りつくせないものがございます。設立までの経緯は、資料館のホームページにて紹介させていただきます。(http://www.kdu.ac.jp/museum)



解体新書



100年前の診療室



横地千仞の世界館

平成24年度決算について



理事長
鹿島 勇

学校法人の経営状態は、私学事業団および文部科学省により指定された経営判断指標を基準として判定されます。正常な経営状態とは、教育・研究活動によるキャッシュフロー（CF）が黒字であり、かつ外部負債も10年以内で返済が可能な状態であり、更に帰属収入から消費支出を控除した帰属収支差額もプラスであること、と定義されています。しかも、これらの条件を3年のうち2年間クリアしていなければなりません。

本学は、従来より外部負債はありません。過去10年間黒字化したことのないCFも平成22年度の一年間でクリアできました。残る課題は帰属収支

差額の黒字化でした。平成22年度は、平成20年度ゼロ査定されていた医療ファンドの回収に成功し、実質的な帰属収支差額は赤字でしたが帳簿上では黒字となりました。一方、平成23年度は負の遺産である有価証券の評価損額を組み入れたために、実質的な帰属収支差額は黒字でしたが帳簿上では赤字となりました。

平成24年度決算では、前年度に比べ、総収入は減少しました。しかし、文部科学省からの補助金100%交付、円安による資産運用収入の増加、そして何よりも教職員一丸となった経費削減努力により、念願であった帰属収支差額の黒字化（2億5384万円）を達成することができました。詳細は大学のホームページに公開しています。このことは、平成22年度から平成24年度までの3年間のうち上記の条件を2年間クリアしたことになります。したがって本学の経営判断指標は、黄色信号であるB0から正常状

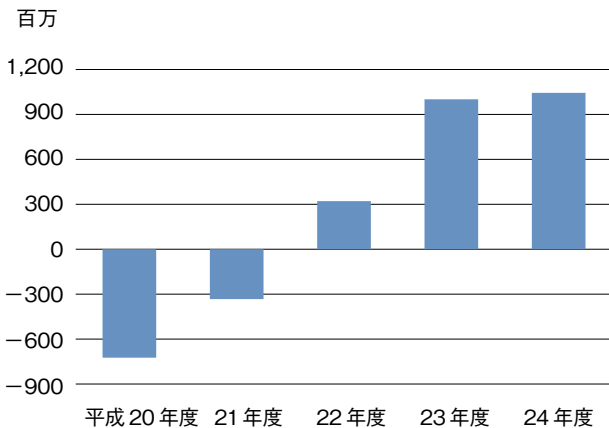
態とされるAランクへと格上げされました。幸運にも恵まれましたが、教職員一丸となった総合力の賜物であり、法人を代表し衷心より感謝の意を表させていただきます。

永続性の担保条件であるCFと帰属収支差額は、大学再建3ヵ年計画でひとまず成功を納め、学校法人として正常の状態に戻ることができました。次は、病院の建て替えや機器備品等の買い替えをするための資金の確保になります。それは、現在貯蓄している資金（減価償却引当特定資産）と貯蓄しておかなければならない資金（減価償却累計額）とのバランスです。平成22年度から着手した改革以来、そのバランスが帰属収支差額の改善に伴って徐々に回復してきました。平成27年度に計画している病院建て替えのためには、そのバランスを今年度中に半分程度まで回復させておかなければなりません。その将来構想実現のため、法人、教職員、同窓会、在学生をも含めた全ての英知を結集し、

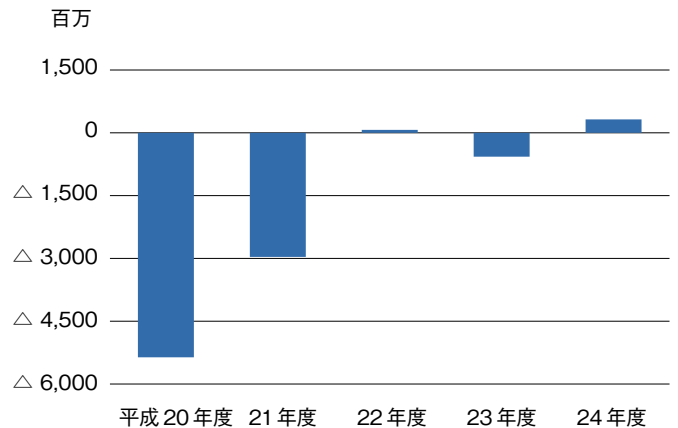
共に創りあげる「共創」の意識を共有しなければなりません。

平成25年度は、歯学部の新設が第一優先順位となります。その重要性を認識し、法人評議員の改選も学生確保を念頭に、思いきった改革を行うことにしました。日本全国を6分割し、各ブロックごとに歯学部同窓会から評議員を選出し、県外評議員を中心に学生確保のためのチームを組織しました。学生確保は、法人、教職員、同窓会が一体となって総力戦で挑むつもりです。また、6年間の学費を減額し、さらに初年時納入金を大幅に減額することによって保護者の負担を軽くしました。これらの戦略を後押しする教育力の強化、歯科医師国家試験低迷からの脱却、法人の実態に即した新給与制度改革のスピードアップ、新病院構想の設計図策定、教員組織の再構築等が今年度改革の根幹となります。教職員の皆様方には、本学の置かれている現況をご理解いただき、さらなるご協力をお願いします。

教育・研究キャッシュフロー（大学として体を成すための必要最低条件）



帰属収支差額（大学としての永続性を担保する経営判断指標）



平成24年度決算について

平成24年度決算は、平成25年5月24日に監事の監査報告を受けて、平成24年5月29日に理事会で議決され同日開催の評議員会で報告されました。

前年度と比べ学生生徒等納付金は減収となったが、補助金が100%交付されたことや、円安により資産運用収入が増収となったこと、また教職員一丸となった経費削減努力により念願であった帰属収支差額の黒字化(2億5,384万円)を達成しました。

また、教育研究活動によるキャッシュフローも昨年度に続き10億円超の黒字を計上し、本学の経営状態は、日本私立大学振興・共済事業団が定める「定量的な経営判断指標に基づく経営状態」において、正常状態とされるAランクにまで回復しました。

なお、近日中に神奈川県立神奈川歯科大学及び神奈川歯科大学短期大学のホームページにも、事業報告や詳細な財務報告を公開しますので、ご覧下さい。

1. 消費収支計算書 24年4月1日から25年3月31日まで (単位 円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	3,978,050,000	3,978,039,000	11,000
手数料	35,440,000	32,200,200	3,239,800
寄付金	28,580,000	43,254,245	▲ 14,674,245
補助金	476,640,000	476,723,188	▲ 83,188
国庫補助金	474,190,000	474,194,000	▲ 4,000
地方公共団体補助金	2,450,000	2,529,188	▲ 79,188
資産運用収入	49,250,000	97,059,580	▲ 47,809,580
事業収入	2,211,730,000	2,240,150,802	▲ 28,420,802
雑収入	313,230,000	338,083,631	▲ 24,853,631
帰属収入合計	7,092,920,000	7,205,510,646	▲ 112,590,646
基本金組入額合計	▲ 40,980,000	▲ 28,283,397	▲ 12,696,603
消費収入の部合計	7,051,940,000	7,177,227,249	▲ 125,287,249

消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	3,835,390,000	3,839,581,849	▲ 4,191,849
教育研究経費	2,227,271,150	2,168,806,269	58,464,881
管理経費	836,338,376	770,198,096	66,140,280
資産処分差額	0	168,115,400	▲ 168,115,400
徴収不能引当金繰入額	3,500,000	4,960,999	▲ 1,460,999
〔予備費〕	[146,299,526] 3,700,474		3,700,474
消費支出の部合計	6,906,200,000	6,951,662,613	▲ 45,462,613
当年度消費収入超過額	145,740,000	225,564,636	
前年度繰越消費支出超過額	9,342,950,000	9,077,336,993	
基本金取崩額	427,530,000	352,808,943	
翌年度繰越消費支出超過額	8,769,680,000	8,498,963,414	

2. 資金収支計算書 24年4月1日から25年3月31日まで (単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,978,050,000	3,978,039,000	11,000
手数料収入	35,440,000	32,200,200	3,239,800
寄付金収入	26,000,000	28,096,700	▲ 2,096,700
補助金収入	476,640,000	476,723,188	▲ 83,188
国庫補助金収入	474,190,000	474,194,000	▲ 4,000
地方公共団体補助金収入	2,450,000	2,529,188	▲ 79,188
資産運用収入	53,500,000	97,059,580	▲ 43,559,580
事業収入	2,211,730,000	2,240,150,802	▲ 28,420,802
雑収入	313,230,000	336,643,711	▲ 23,413,711
前受金収入	558,380,000	603,572,500	▲ 45,192,500
その他の収入	1,911,070,000	1,776,229,406	134,840,594
資金収入調整勘定	▲ 1,155,430,000	▲ 1,204,026,701	48,596,701
前年度繰越支払資金	2,606,130,000	2,606,127,363	
収入の部合計	11,014,740,000	10,970,815,749	43,924,251
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	3,841,230,000	3,844,014,724	▲ 2,784,724
教育研究経費支出	1,445,211,150	1,384,934,335	60,276,815
管理経費支出	726,628,376	662,008,176	64,620,200
施設関係支出	6,400,000	4,084,500	2,315,500
設備関係支出	108,165,000	108,024,809	140,191
資産運用支出	0	8,695,090	▲ 8,695,090
その他の支出	1,684,681,700	1,468,480,914	216,200,786
〔予備費〕	[149,776,226] 223,774		223,774
資金支出調整勘定	▲ 337,120,000	▲ 409,891,947	72,771,947
次年度繰越支払資金	3,539,320,000	3,900,465,148	▲ 361,145,148
支出の部合計	11,014,740,000	10,970,815,749	43,924,251

3. 貸借対照表 25年3月31日まで (単位 円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	23,442,065,814	24,379,096,713	▲ 937,030,899
有形固定資産	16,460,449,833	17,393,995,467	▲ 933,545,634
その他の固定資産	6,981,615,981	6,985,101,246	▲ 3,485,265
流動資産	4,631,784,745	3,529,525,378	1,102,259,367
資産の部合計	28,073,850,559	27,908,622,091	165,228,468
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	2,319,852,289	2,324,285,164	▲ 4,432,875
流動負債	1,081,944,811	1,166,131,501	▲ 84,186,690
負債の部合計	3,401,797,100	3,490,416,665	▲ 88,619,565
資本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	32,421,016,873	32,745,542,419	▲ 324,525,546
第3号基本金	86,000,000	86,000,000	0
第4号基本金	664,000,000	664,000,000	0
基本金の部合計	33,171,016,873	33,495,542,419	▲ 324,525,546
消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額	8,498,963,414	9,077,336,993	▲ 578,373,579
消費収支差額の部合計	▲ 8,498,963,414	▲ 9,077,336,993	578,373,579
科 目	本年度末	前年度末	増減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	28,073,850,559	27,908,622,091	165,228,468

就任挨拶



短期大学部学部長
長谷 徹

旧湘南短期大学は平成25年4月1日より神奈川歯科大学短期大学部と校名変更し、歯科衛生学科、看護学科の2学科を擁する短期大学部として新たなスタートを切りました。それに伴い、2学科のまとめ役として学部長を拝命

いたしました長谷でございます。

現在、短期大学の置かれている環境は厳しいものがあり、特に歯科衛生学科に関しましては120名定員のところ1学年45名まで減少してしまった時期がございました。しかし、入試広報システムの一新とともに、全教職員の努力により成し得た歯科衛生士国家試験の5年連続100%達成(神奈川県下で本学のみ)が次第に高校に浸透するなかで、翌年60名、翌々年80名と増加に転じ、平成25年度は109名の1年生を確保す

ることができました。これも偏に学校法人神奈川歯科大学全教職員のみなさま方の御理解と御協力の賜物と感謝いたしております。

お陰様で看護学科の学生確保状況に関しましては、開講後7年目に入りました現在、定員の約3倍強の応募があります。これも、教職員の日々の努力の結果であります。近隣の関東学院大学での看護学部の開設、さらに後藤学園の横須賀開校が準備されているなかで、看護学科といえども安心はできません。

われわれ教職員は本学園の100年を超える長い歯科医学教育の歴史なかで、これまで短期大学

部が果たしてきたその意義と実績に鑑み、更なる発展を遂げねばなりません。そのためにも歯科衛生、看護の両学科が共に手を携えて一層の教育システムの改善に取り組み、また、教育環境の整備に努力していく所存です。

一方、これまで短期大学部が培ってきた神奈川県内の高校との親密なネットワークを駆使することで神奈川歯科大学全体の学生確保に寄与することが、新たなステージに立った神奈川歯科大学の一員としての短期大学部の使命と存じております。今後とも、御支援、御協力の程、よろしく願いいたします。



大学院研究科長
榎木 恵一

この十数年、文部科学省は、大学の改革を着実に進めており、大学院については重点化政策が様々な展開されてきました。特に、これまでの政策の集約として第2次大学院教育振興施策要綱が平成23年8月に発表されました。この目的は、大学院教育の一層の充実・強化による質の保障を担保し、知

の最高学府である大学院の強化によって世界における日本のリーダーシップを確保しようとするものです。一方で、質の伴わない大学院は選別される時代に入ったともいえます。これまで、大学院は学部の延長線上にあるアクセサリ的な側面が長く続いてきたと同時に、徒弟的な環境による学位取得が主体をなしてきました。しかし大学院は、教育機関であり優秀な人材の輩出、研究機関として特色ある研究の展開、さらに地域への貢献を果たしていくことが必要となっています。

本学大学院は、平成21年より平成25年までを第1次大学院改革と

して、主として大学院の諸規定の整備、大学院生のニーズに沿った改革、地域貢献を行ってきました。これまでの改革の1例をあげると、カリキュラム改革による講義の実施、4年間を見据えての一貫教育、大学院の組織的な学位取得の推進、研究テーマに基づく講座再編、連携大学制度、満期退学制度、博士(歯学)以外に博士(臨床歯学)、博士(学術)をコース別教育の違いにより取得できるようにしました。今後の展開として、平成26年度から3か年は、第2次大学院改革を実施しなければなりません。この趣旨は「質の高い神奈川歯科大学大学院の構築」です。これは、

次の認証評価を受けるためにも、PDCAサイクルに基づき計画的に進められねばなりません。

平成25年度より、歯学部からほとんどの教員が大学院へ移行しました。これは、大学院重点化という文部科学省の方針にも沿うものでありますが、今後、本学大学院のさらなる発展と同時に学生確保は必須の命題です。このような極めて重要な時期に、大学院研究科長を拝命し身の縮まる思いと同時に、責任の重さを感じているところです。今後とも皆様からの忌憚らないご意見をいただきながら、改革を進めていく所存であり、ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



口腔科学講座 歯科矯正学分野
大学院教授
河田 俊嗣

平成25年4月より歯科矯正学教授を拝命させていただきました。

はじめに、国家試験合格率向上させることは、新入生の確保・患者の確保等、緊急を要する命題であると認識しています。

国家試験に向けた「学生参加型授業」へ。学生が授業を何回か構成する(書く、話し合う、発表する

場)定期試験(問題、解答、解説集)を作らせる。以上を後期歯科矯正学講義・実習で実践してみます。

国家試験に直結した教育には、常に改革が求められます。トップダウンとボトムアップ双方向から、常時危機意識と教員同士の相互協力によって、早急に結果を出すよう努力します。

略歴：

- 平成 3年 愛知学院大学歯学部歯学科卒業
- 平成 7年 広島大学大学院歯修了博士(歯学)
- 平成 7年 広島大学助手歯学部(歯科矯正学)
- 平成12年 広島大学病院講師(矯正歯科)
- 平成18年 広島大学大学院 歯科矯正学 准教授



高度先進口腔医学講座 矯正学分野
大学院教授
不島 健持

この度、横浜クリニック矯正科に赴任した14回生の不島です。神奈川歯科大学大学院を卒業後、同矯正学講座に14年間勤務、平成13年に大学を退職し故郷の金沢市にて矯正歯科専門医を開業、今回ご縁があってまた大学

に戻ってまいりました。開業医としての約10年間、矯正用インプラントや外科矯正シミュレーションシステムの開発などを通し、近代矯正における臨床システムの大きな進歩を実感してきました。微力ではありますが自身の経験

を生かし、将来の大学を担う人材の育成と矯正歯科臨床の発展のため尽力したいと思います。今後とも、ご指導ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。

平成25年度第1回全学総合防災訓練

平成25年5月24日(金)全学教職員・学生の参加による防災訓練を実施した。今回は震度6強の地震の発生と、その後火災が生じるという想定のもとに行われた。総合防災訓練としては昨年から行われ

2回目であり充実してきている反面、様々な問題点も明らかになってきた。今後は、さらに精度の高い防災訓練の構築のために繰り返し訓練を行うと同時に効果的な防災システムの構築を目指していきたい。



水消火器訓練

神奈川歯科大学第44回諸霊供養の会

第44回諸霊供養の会を平成25年4月13日(土)本学大講堂にて執り行いました。

本年度も、ご献体頂きました方々と共に、本学死因調査事務所及び死因究明事務所にて法医解剖・検案をさせて頂きました方々の御霊に対し、合同解剖慰霊祭として執り行わせて頂きました。

当日は穏やかな気候に恵まれ、佐藤貞雄学長・峯村明彦法人事務局長・井野智横浜クリニック院長の3名の理事の先生方と、ご来賓として、沼田芳明横須賀福市長亀井貴嗣県議会議員をはじめ、会員様、ご遺族様、ご来賓、教職員、

歯学部3年生湘南短期大学部看護学科及び歯科衛生学科学学生代表ら、総勢600名の方々にご参列賜りました。

口腔科学講座榎木教授による司会進行で、式典は厳かに始まりました。峯村法人事務局長の開会のことばに続き、井野横浜クリニック院長より、平成24年度にご成願されました51名の方のご芳名拝読をさせて頂きました。その方々を加えた献体者ご芳名帳が、高橋常男教授の手により祭壇中央に奉納されました。その後、法医解剖・検案をさせて頂きました120名の方々のご芳名帳を津田征郎客員教授の手

で同じく祭壇中央に奉納させて頂きました。佐藤学長からご献体成願者1849柱の御霊と法医解剖920柱の御霊に対する慰霊の言葉に続き、3年生代表内藤広太郎さんと鄭善化さんがご献体いただいた方々と、ご理解いただきましたご遺族様に対する深い感謝の気持ちが込められた弔辞を読み上げました。会場には、横須賀混声合唱団様によるピアノの生演奏が穏やかに奏でられ参列者全員がそれぞれ一ものカーネーションを手に、献体成願者ならびに法医解剖諸霊位の

ご冥福を祈って礼拝いたしました。横須賀混声合唱団の皆様は、元メンバーの方が本年度本学にご献体されたことに伴い、今回の御演奏・コーラスの披露を快くご快諾くださいました。献花が終了したのち、諸霊位の安息を願い心を込めた美しいコーラス2曲をご披露賜り、正午に式典は無事終了いたしました。



平成25年度 弓削朝子研究奨励賞受賞者、東 雅啓先生に決定

本年4月、弓削朝子研究奨励賞の募集(第9回目)を行いました結果、7名の応募がありました。神奈川歯科大学弓削朝子研究助成委員会、教授会の議を経て、受賞者が決定いたしました。

【平成25年度弓削朝子研究奨励賞受賞者】

口腔科学講座

東 雅啓 特別研究員
研究課題

「唾液を用いた統合失調症の早期診断及びリスク評価のための唾液検査法の確立」
研究奨励金 30万円

本学の学術研究のために多大なるご寄附を賜り、故弓削朝子先生並びにご親族の皆様にご心より感謝申し上げます。

※弓削朝子研究奨励賞

神奈川歯科大学名誉教授
故弓削朝子先生からの寄贈基金によって運用されている学

内研究者を対象とした研究奨励のために支給される補助金です。



教学部だより

歯学部

アメリカ研修

平成25年2月24日(日)～3月4日(月)の9日間、歯学部から選抜された4名がアメリカのミズーリ大学歯学部カンサス校にて研修を行いました。現地開業医のクリニックの見学、大学病院での病理学講義の受講、現地学生との交流などのプログラムを無事終了しました。参加した6年応藤さんは「日本とアメリカの相違点を学ぶとともに、歯科へかける情熱や取り組む姿勢など様々なこ

とを見習わなければならないと感じました。」、6年中平さんは「自分たちが今学んでいることが世界でも通用することがわかったと同時に、将来世界を視野に入れて治療をしたり情報を得たりすることが大事だと感じた。」とコメントしていました。今回様々な経験をし、今自分が学んでいることの意



アメリカ研修

味、自分の将来について深く考えることができたとても有意義な時間となりました。

平成24年度特待生表彰式

5月9日(木)、前年度の各学年成績優秀者15名が特待生として表彰され、佐藤学長より一人ひとりに賞状が手渡されました。

特待生は、年間成績が特に優秀であった者に対し奨学金

として次年度の授業料が減額される制度で、学生にとって勉学の大きな励みになっています。

【特待生】2年浅井五月、齋藤布至、中村里穂、3年片桐法香、木村裕二郎、本間優太、4年木内由紀子、相馬聡宏、武井佑里子、5年石井滋、組田一恵、西村隆克、6年応藤光浩、加々美太輔、村田陽太郎



特待生表彰式

短期大学部

短期大学部授業開放

神奈川歯科大学短期大学部では、保護者の皆様に教育の現状をご理解いただくため授業開放を行っており、平成25年度は6月5日(水)1～3限に歯科衛生学科、看護学科で実施しました。

保護者会総会および教職員との懇親会

平成25年6月5日(水)1～3限に歯科衛生学科、看護学科で保護者の皆様に教育の現状をご理解いただくため授業開放を実施しました。

その後、同日15時から神奈川歯科大学短期大学部の保護者会および教職員との懇親会がパレット1階ワールドグルメジャンクションで行われました。総会は保護者会担当プロジェクト委員である、看護学科の木村美津子先生の開会の辞に始まり奥野由美子保護者

会会長、佐藤貞雄学長のご挨拶をいただきました。議題として、

1)議事録署名人の選出、2)平成25年役員(案)、3)平成24年度事業報告、4)平成24年度会計報告、5)平成25年度事業計画、6)平成25年度予算(案)が示され、上記のすべてが承認されました。

引き続き懇親会が行われ、講義や実習のある先生方は本務が終了後に直ちに参加しました。保護者の皆様や教職員は多忙にもかかわらず、約70人(うち教職員24人を含む)が参加し軽食をいただきながら、学生生活や学習その他について語り合いそれぞれの立場で理解を深め共有することで有意義な時間を過ごしました。

毎年恒例で実施されている、

授業開放、保護者会総会、保護者と教員との懇親会は、保護者と教員が共に参加し直接意見交換が出来るきわめて重要な行事であることを改めて認識し報告するものです。

オープンキャンパス

平成25年5月12日(日)に今年度第1回目の短期大学部オープンキャンパスが開催されました。メニューは学科・入試説明、体験授業の他にAO入試対策講座と盛り沢山。またAO入試のエントリーには体験授業の受講が必須となっているため、多くの学生、保護者の方が参加されました。ち

なみに歯科衛生学科の体験授業テーマは「のぞいてみよう!歯科治療」。やさしく歯科治療の概要と歯科衛生士の役割の重要性を理解してもらいました。看護学科では「高齢者の特徴」の講義と「無症候性脳梗塞の簡易診断方法」で、現役3年生も講師役で参加して、楽しく体験してもらいました。

なお、当日は第二日曜日でしたので『母の日』、さらに5月12日(日)はナイチンゲール生誕の日で『国際看護の日』でもありました。そこで、オープンキャンパスに参加された高校生一人ひとりにカーネーションがプレゼントされました。



保護者会総会・教職員との懇親会



オープンキャンパス

教学部だより

オープンキャンパス 2013年度日程

歯学部	
実施日	体験授業
2013年 7月 21日(日)	お口の中にある細菌を顕微鏡で観つけよう
8月 4日(日)	プチ☆歯科医院体験! ※短大と合同
8月 29日(木)	横浜クリニックへ行こう!
9月 29日(日)	ムシバ治療を体験しちゃおう!
10月 12日(土)	稲岡祭 ※個別相談のみ 12:00~15:00
10月 13日(日)	稲岡祭 ※個別相談のみ 12:00~15:00
11月 17日(日)	入試対策講座
2014年 3月 16日(日)	新3年生対象

※詳細はホームページをご覧ください

短期大学部

実施日		歯科衛生学科 体験授業	看護学科 体験授業
7月 14日(日)	AO入試 対策講座	顔の筋肉を鍛えて、美しくなっちゃいましょう!	妊婦体験からわかること
7月 28日(日)	保護者 説明会	カラフルマスク作り! 附属病院見学あり!	体の音を聞いてみよう
8月 4日(日)	AO入試 対策講座	「プチ☆歯科医院体験!」 ※歯学部と合同 体験授業	心肺蘇生法
8月 22日(木)		ミラクルフルツってミラクル!?	小児のバイタルサイン
9月 22日(日)	推薦入試 対策講座	附属病院見学あり! メイクと口腔ケア	バイタルサインって何?
11月 10日(日)		ちょっとだけ詳しくなろうインプラント	生活習慣病とは
2014年 2月 16日(日)		体の深部体温はどのくらい? 発熱と低体温	体の音を聞いてみよう
3月 23日(日)	新高3生 対象	歯科衛生士の仕事	看護師の仕事

※詳細はホームページをご覧ください

【歯学部学費改定のお知らせ】

2014年度入学生より 歯学部の学費が変わります。

初年次学生納付金 850万円 ⇒ 395万円へ

6年間の学費総額 3055万円 ⇒ 2700万円へ

さらに一般入学試験1期にて、学生納付金免除

※成績上位1位~10位までが対象

平成26年度入試日程

歯学部【2014年度入学試験実施一覧】

歯学部歯学科 (定員 100名 男女)					
試験区分	試験日	合格発表	試験区分	試験日	合格発表
推薦1期(指定校)	11月3日(日)	11月5日(火)	一般1期	2014年 1月24日(金) 1月25日(土)	2014年 1月28日(火)
推薦1期(公募)					
推薦2期(指定校)	12月8日(日)	12月10日(火)	一般2期	2014年 2月16日(日)	2014年 2月18日(火)
推薦2期(公募)					
卒業生子女1期	11月3日(日)	11月5日(火)	一般3期	2014年 3月9日(日)	2014年 3月11日(火)
卒業生子女2期	2014年 1月24日(金)	2014年 1月28日(火)	センター利用 1期	2014年 1月24日(日)	未定
卒業生子女3期	2014年 2月16日(日)	2014年 2月18日(火)	センター利用 2期	2014年 2月16日(日)	2014年 2月18日(火)
卒業生子女4期	2014年 3月9日(日)	2014年 3月11日(火)	試験区分	実施日	内定発表
帰国子女・外国人 留学生 1期~4期	卒業生子女と同じ		AO 1期	8月23日(金)	8月27日(火)
編入学 1期~4期	卒業生子女と同じ		AO 2期	11月3日(日)	11月5日(火)
			AO 3期	12月8日(日)	12月10日(火)

※詳細はホームページをご覧ください

短期大学部【2014年度入学試験実施一覧】

歯科衛生学科 (定員 120名 男女)		
試験区分	試験日	合格発表
推薦I期(指定校)	10月27日(日)	10月29日(火)
推薦I期(公募)		
推薦II期(指定校)	12月1日(日)	12月3日(火)
推薦II期(公募)		
一般	2014年2月2日(日)	2014年2月4日(火)
特待生推薦	10月27日(日)	10月29日(火)
社会人特別I期	10月27日(日)	10月29日(火)
社会人特別II期	12月1日(日)	12月3日(火)
試験区分	面談日	内定発表
AO 1期	8月19日(月)	8月20日(火)
AO 2期	9月9日(月)~9月27日(金)	10月1日(火) まで
AO 3期	11月25日(月)~12月9日(月)	12月12日(木) まで
AO 4期	個別にお知らせいたします。	

看護学科 (定員 80名 男女)

試験区分	試験日	合格発表
推薦I期(指定校)	10月27日(日)	10月29日(火)
推薦I期(公募)		
推薦II期(指定校)	12月1日(日)	12月3日(火)
推薦II期(公募)		
一般	2014年2月2日(日)	2014年2月4日(火)
特待生推薦	10月27日(日)	10月29日(火)
社会人特別I期	10月27日(日)	10月29日(火)
社会人特別II期	12月1日(日)	12月3日(火)
試験区分	面談日	内定発表
AO 1期	9月29日(日)	10月1日(火)
AO 2期	12月1日(日)	12月3日(火)
AO 3期	2014年3月13日(木)	個別にお知らせいたします。

※詳細はホームページをご覧ください